2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	薬業科		科目	区	分	専門分野	授業の方法	演	習
科目名	化粧品化学実習		必修/選	₹択ℓ	D別	必修	授業時数(単位数)	60 (2)) 時間(単位)
対象学年	2年		学期及7	が曜日	寺限	前期	教室名	4校舎6階基礎	选医学実習室
担当教員	和田光弘	実務経験と その関連資格	化粧品メー 主に化粧品	カーに新製	こおい 品開 ^変	・ て開発部長、主席研究 発研究に携わる。	員などとして勤	務。	

《授業科目における学習内容》

化粧品について、化粧品分析ゼミ(1年次)で学んだ基本をもとに、より深くより幅広く知り実践により理解習得する。 企業における新製品開発研究を、原料・処方を知り実際に実験することにより体感し理解を深める。

《成績評価の方法と基準》

レポート50点+出席点30点+平常点(積極的参加度)20点

《使用教材(教科書)及び参考図書》

パワーポイントなどの使用、または必要に応じてオリジナルプリント配布。

《授業外における学習方法》

全成分表示(商品の外装などに記載)に興味を持ち、自身の使用化粧品はもちろん買い物時などにも観る習慣を持つ。 指示のあった授業のレポートを作成する。

《履修に当たっての留意点》

実験については正確さが重要であり、個人およびグループの創意工夫も大切である。

実験においては誤った操作をすると事故につながる恐れもあるため、教員の指示に従い慎重に行動し白衣を着用する。

	業の 法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第	演習実	授業を 通じての 到達目標	化粧水、美容液の保湿について理解することができる。	パワーポイントな どの使用 または必要に応		
1	天習 形式	各コマに おける 授業予定	保湿剤の概説および原料成分の実感	じてオリジナルプ リント配布 アンケート実施		
第	演習実	授業を 通じての 到達目標	化粧水、美容液の保湿について理解することができる。	パワーポイントな どの使用		
2	美習 形式	各コマに おける 授業予定	化粧水について基本の保湿感の処方作成	または必要に応 じてオリジナルプ リント配布	前回レポート作成と復習を行うこと	
第	演習 担業を通じての 到達目標		化粧水、美容液の保湿について理解することができる。	パワーポイントな どの使用	前回レポート作成と復	
3	実習形式	各コマに おける 授業予定	化粧水、美容液について基本の保湿感の処方作成	または必要に応 じてオリジナルプ リント配布	習を行うこと	
第	演習実	授業を 通じての 到達目標	化粧水、美容液の保湿について理解することができる。	パワーポイントな どの使用	10 1 lb 1 lb	
4	美習 形 式	各コマに おける 授業予定	化粧水、美容液について基本の保湿感の処方作成	または必要に応 じてオリジナルプ リント配布	前回レポート作成と復習を行うこと	
第	演習実	; 通げの 化粧水、美谷液の保湿について埋解することができる。 到達目標		パワーポイントな どの使用		
5 回	表 習 各コマに 形 おける 授業予定		化粧水、美容液について、コンセプトで求められる保湿感の処 方作成	または必要に応 じてオリジナルプ リント配布	前回レポート作成と復習を行うこと	

	業の 法	内容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第	演習実	授業を 通じての 到達目標	化粧水、美容液の保湿について理解することができる。	パワーポイントな どの使用	前回レポート作成と復	
6 回	習形	各コマに おける 授業予定	化粧水、美容液について、コンセプトで求められる保湿感の処 方作成	または必要に応 じてオリジナルプ リント配布	習を行うこと	
第	演習 実		化粧品において様々な特徴を発現することができる高分子成分の特徴、応用、処方化による製品の特徴などを理解することができる。	パワーポイントな どの使用	並同134 114 114 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14	
7 回	美習 形式	各コマに おける 授業予定	原料成分単体の特徴の理解および実験	または必要に応 じてオリジナルプ リント配布	前回レポート作成と復習を行うこと	
第	演習実	授業を 通じての 到達目標	化粧品において様々な特徴を発現することができる高分子成分の特徴、応用、処方化による製品の特徴などを理解することができる。	パワーポイントな どの使用	前回レポート作成と復	
8	~習形式	習 各コマに おける 授業予定 原料成分単体の特徴の理解および実験 リント画		または必要に応 じてオリジナルプ リント配布	前回レポート作成と復習を行うこと	
第	演習実	授業を 通じての 到達目標	化粧品において様々な特徴を発現することができる高分子成分の特徴、応用、処方化による製品の特徴などを理解することができる。	パワーポイントな どの使用	前回レポート作成と復	
9 🗓	天習 形式	各コマに おける 授業予定	高分子の違いによる製品の特徴①	または必要に応 じてオリジナルプ リント配布	習を行うこと	
第	演習実	授業を 通じての 到達目標	化粧品において様々な特徴を発現することができる高分子成分の特徴、応用、処方化による製品の特徴などを理解することができる。	パワーポイントな どの使用	前回レポート作成と復 習を行うこと	
10回	~習形式	各コマに おける 授業予定	高分子の違いによる製品の特徴②	または必要に応 じてオリジナルプ リント配布		
第	演習宝	授業を 通じての 到達目標	化粧品において様々な特徴を発現することができる高分子成分の特徴、応用、処方化による製品の特徴などを理解することができる。	パワーポイントな どの使用	前回レポート作成と復	
11 回	実習形式	各コマに おける 授業予定	高分子の違いによる製品の特徴③	または必要に応 じてオリジナルプ リント配布	習を行うこと	
第	演習実	授業を 通じての 到達目標	化粧品において様々な特徴を発現することができる高分子成分の特徴、応用、処方化による製品の特徴などを理解することができる。	パワーポイントな どの使用	前回レポート作成と復	
12	天習 形式	各コマに おける 授業予定	高分子の違いによる製品の特徴④	または必要に応 じてオリジナルプ リント配布	習を行うこと	
第	演習実	授業を 通じての 到達目標	化粧品において様々な特徴を発現することができる高分子成分の特徴、応用、処方化による製品の特徴などを理解することができる。	パワーポイントな どの使用	前回レポート作成と復	
13 回	天習 形式	各コマに おける 授業予定	処方への応用	または必要に応 じてオリジナルプ リント配布	習を行うこと	
第	演習実	授業を 通じての 到達目標	化粧品において様々な特徴を発現することができる高分子成分の特徴、応用、処方化による製品の特徴などを理解することができる。	パワーポイントな どの使用		
14	美習形式	各コマに おける 授業予定	処方への応用	または必要に応 じてオリジナルプ リント配布	前回レポート作成と復習を行うこと	
第	演習害	授業を 通じての 到達目標	ファンデーションの処方、特に調色について理解することができる。	パワーポイントな どの使用	前回1747、176个176	
15 □	実習形式	各コマに おける 授業予定	基本処方の作成	または必要に応 じてオリジナルプ リント配布	前回レポート作成と復習を行うこと	

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	薬業科	科目	区	分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	化粧品化学実習	必修/選	℥択ℓ	D別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対象学年	2年	学期及7	ブ曜日	寺限	前期	教室名	4校舎6階基礎医学実習室
担当教員	和田光弘				って開発部長、主席研究 発研究に携わる。	 :員などとして勤	務。

《授業科目における学習内容》

化粧品について、化粧品分析ゼミ(1年次)で学んだ基本をもとに、より深くより幅広く知り実践により理解習得する。 企業における新製品開発研究を、原料・処方を知り実際に実験することにより体感し理解を深める。

《成績評価の方法と基準》

レポート50点+出席点30点+平常点(積極的参加度)20点

《使用教材(教科書)及び参考図書》

パワーポイントなどの使用、または必要に応じてオリジナルプリント配布。

《授業外における学習方法》

全成分表示(商品の外装などに記載)に興味を持ち、自身の使用化粧品はもちろん買い物時などにも観る習慣を持つ。 指示のあった授業のレポートを作成する。

《履修に当たっての留意点》

実験については正確さが重要であり、個人およびグループの創意工夫も大切である。

実験においては誤った操作をすると事故につながる恐れもあるため、教員の指示に従い慎重に行動し白衣を着用する。

授美			内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第	演習実	授業を 通じての 到達目標	ファンデーションの処方、特に調色について理解することができる。		前回レポート作成と復習 を行うこと	
16	習形	各コマに おける 授業予定	調色実験			
第	演習実	授業を 通じての 到達目標	ファンデーションの処方、特に調色について理解することができる。	パワーポイントな どの使用	美国设置工作员 发现	
17 回	習形	各コマに おける 授業予定	調色実験	または必要に応 じてオリジナルプ リント配布	前回レポート作成と復習 を行うこと	
第	演習実	授業を 通じての 到達目標	ファンデーションの処方、特に調色について理解することができる。	パワーポイントな どの使用	前回レポート作成と復習 を行うこと	
18	習形	各コマに おける 授業予定	調色実験	または必要に応 じてオリジナルプ リント配布		
第	演習実	授業を 通じての 到達目標	乳化物(クリーム)のテクスチャーの違いと処方との関係を理解することができる。	パワーポイントな どの使用		
19	習形	各コマに おける 授業予定	基本処方①	または必要に応 じてオリジナルプ リント配布	前回レポート作成と復習 を行うこと	
第	演習実	授業を 通じての 到達目標	乳化物(クリーム)のテクスチャーの違いと処方との関係を理解することができる。	パワーポイントな どの使用	美国区代刊作出	
20 回	習形	各コマに おける 授業予定	基本処方②	または必要に応じてオリジナルプリント配布	前回レポート作成と復習 を行うこと	

	業の法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第	演習実	授業を 通じての 到達目標	乳化物(クリーム)のテクスチャーの違いと処方との関係を理解 することができる。	パワーポイントな どの使用	前回レポート作成と復習	
21 回	关習 形式	各コマに おける 授業予定	検討①肌なじみ	または必要に応 じてオリジナルプ リント配布	を行うこと	
第	演習実	授業を 通じての 到達目標	乳化物(クリーム)のテクスチャーの違いと処方との関係を理解することができる。	パワーポイントな どの使用	前回レポート作成と復習 を行うこと	
22回	~習形式	各コマに おける 授業予定	検討①肌なじみ	または必要に応 じてオリジナルプ リント配布		
第	演習実	授業を 通じての 到達目標	乳化物(クリーム)のテクスチャーの違いと処方との関係を理解することができる。	パワーポイントな どの使用	前回レポート作成と復習	
23 回	大習形式	各コマに おける 授業予定	検討②伸び	または必要に応 じてオリジナルプ リント配布	を行うこと	
第	演習実	授業を 通じての 到達目標	乳化物(クリーム)のテクスチャーの違いと処方との関係を理解することができる。	パワーポイントな どの使用	前回レポート作成と復羽	
24 回	天習 形式	各コマに おける 授業予定	検討②伸び	または必要に応 じてオリジナルプ リント配布	前回レポート作成と復習 を行うこと	
第	演習実	授業を 通じての 到達目標	無添加化粧品について理解することができる。	パワーポイントな どの使用	前回レポート作成と復習 を行うこと	
25 回	~習形式	各コマに おける 授業予定	無添加化粧品の実態・内容説明	または必要に応 じてオリジナルプ リント配布		
第	演習実	授業を 通じての 到達目標	無添加化粧品について理解することができる。	パワーポイントな どの使用	前回レポート作成と復習 を行うこと	
26 回	~習形式	各コマに おける 授業予定	無添加の化粧品の作成①	または必要に応 じてオリジナルプ リント配布		
第	演習実	授業を 通じての 到達目標	無添加化粧品について理解することができる。	パワーポイントな どの使用	前回レポート作成と復習	
27 回	大習形式	各コマに おける 授業予定	無添加の化粧品の作成②	または必要に応 じてオリジナルプ リント配布	を行うこと	
第	演習実	授業を 通じての 到達目標	無添加化粧品について理解することができる。	パワーポイントな どの使用	前回レポート作成と復習	
28	大習形式	各コマに おける 授業予定	無添加の化粧品の作成③	または必要に応 じてオリジナルプ リント配布	を行うこと	
第	演習	授業を 通じての 到達目標	化粧品の新製品を実際に企画開発することで、企業開発部門 における新製品開発業務の流れを体感することができる。	パワーポイントな どの使用	並同1.25.1.1 <i>作</i> 式1.27羽	
第 29 回	実習形式	各コマに おける 授業予定	化粧品新製品の企画開発(ゼミの集大成として)	または必要に応 じてオリジナルプ リント配布	前回レポート作成と復習 を行うこと	
第	演習実	授業を 通じての 到達目標	化粧品の新製品を実際に企画開発することで、企業開発部門 における新製品開発業務の流れを体感することができる。	パワーポイントな どの使用	発表	
30 回	美習 形式	各コマに おける 授業予定	化粧品新製品の企画開発(ゼミの集大成として)	または必要に応 じてオリジナルプ リント配布		